

バイオビジネス環境学特論 I (2単位)

担当者氏名 泉田洋一

◆学習・教育目標

バイオビジネス環境学特論 I の学習・教育目標は環境学の基礎理論を、主に環境経済学・農業経済学・農業経営学を通して学ぶことである。環境、とりわけ自然環境は人類の繁栄および幸福の究極の基礎であり、この自然環境と人間の経済経営諸活動がこれまでどういう相互関係を持ってきたのか、そして今後この相互関係をどのように成立させるべきなのか、等について基礎理論を通して学びそして考える。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

生物多様性	公共財	社会的費用と社会的便益	環境保全と市場
エコツーリズム	京都議定書	環境評価	持続可能性

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	人間活動と地球・生物多様性	人類が地球規模で生態的基盤に与えた影響	第一は、環境学の基本的枠組みを学ぶこと。
2	経済学・経営学の基礎	公共財、社会的費用と私的便益・社会的便益、森林保全の費用など	第二は、既存の経済学・経営学における環境への接近視点を学ぶこと。
3	市場と環境	人類にとって必要不可欠な水と市場メカニズムとの関係	第三は、近年の環境に関する話題を理論の視点から理解すること。
4	エコツーリズム	エコツーリズムと環境保全の関係	
5	生物多様性	生物多様性と市場の関係	
6	京都議定書	森林が環境保全に果たす市場機能と国際社会の対応	第四は、二律背反的に考えがちな環境保全と市場メカニズムの相互依存関係を理解すること。
7	環境評価	非市場評価と自然環境	
8	政策と制度	環境保全と政策・制度の関係	
9	持続可能性	環境資産の利用方法	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

はじめての環境経済学/ジェフリー・ヒル/東洋経済新報社 (2006年)
地球白書/レスター・R・ブラウン/ワールドウオッチ研究所・ダイヤモンド社 (1998年など)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

環境破壊と社会的費用/KW カップ/岩波書店 (1975年)
環境白書/環境庁編/財務省印刷局 (各年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートと試験で評価する。

◆その他受講上の注意事項